

談話室マロニエ

SOY PASTE

演習期の数学

7 複素平面

7-1 (r3-1)

a が実数全体を動くとき、 z の 2 次方程式

$$z^2 - 2az + 2a^2 - 1 = 0$$

の解を表す点は、複素数平面上でどのような図形を描くか、図示せよ。

(ii) $|a| > 1$ のとき、

$$D < 0$$

であるから、(*) は虚数解をもつ。

このとき、(*) の解は、

$$z = a \pm \sqrt{a^2 - 1}i$$

であるから、

$$z = x + yi \quad (x, y \text{ は実数})$$

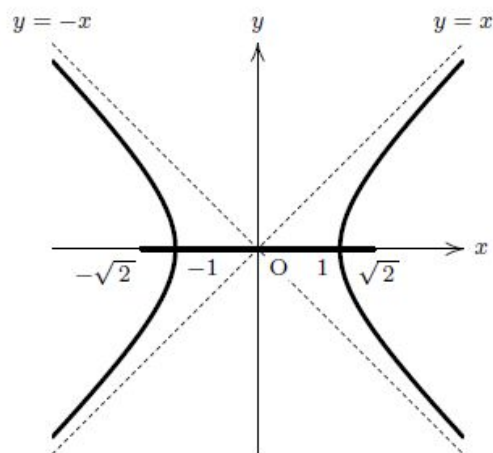
とすると、

$$\begin{cases} x = a, \\ y = \pm\sqrt{a^2 - 1}. \end{cases}$$

a を消去すると、

$$\begin{cases} x^2 - y^2 = 1, \\ |x| > 1. \end{cases}$$

(i), (ii) より、(*) の解を表す点を複素数平面上に描くと、次の図の太線部分である。



$$z^2 - 2az + 2a^2 - 1 = 0 \quad \dots (*)$$

の判別式を D とすると、

$$\begin{aligned} \frac{D}{4} &= a^2 - (2a^2 - 1) \\ &= 1 - a^2 \end{aligned}$$

であるから、 a の値で場合分けする。

(i) $-1 \leq a \leq 1$ のとき、

$$D \geq 0$$

であるから、(*) は実数解をもつ。

また、(*) より、

$$(z - a)^2 + a^2 = 1$$

であるから、実数 θ ($0 \leq \theta < 2\pi$) を用いて、

$$\begin{cases} z - a = \cos \theta, \\ a = \sin \theta. \end{cases}$$

このとき、

$$\begin{aligned} z &= \sin \theta + \cos \theta \\ &= \sqrt{2} \sin \left(\theta + \frac{\pi}{4} \right) \end{aligned}$$

であるから、

$$-\sqrt{2} \leq z \leq \sqrt{2}.$$

7-2 (r22-1)

$z^4 = -8 + 8\sqrt{3}i$ を満たす複素数 z のうち、虚部が最大であるものを求めよ。

ただし、 i は虚数単位とする。

$$z^4 = -8 + 8\sqrt{3}i$$

の右辺を極形式に直すと、

$$z^4 = 16 \left(\cos \frac{2}{3}\pi + i \sin \frac{2}{3}\pi \right).$$

さらに、

$$\begin{cases} r > 0, \\ 0 \leq \theta < 2\pi \end{cases}$$

を用いて、

$$z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$$

とすると、ド・モアブルの定理より、

$$z^4 = r^4(\cos 4\theta + i \sin 4\theta).$$

②、④より、

$$\begin{cases} r^4 = 16, \\ 4\theta = \frac{2}{3}\pi + 2n\pi \end{cases}$$

であるから、③より、

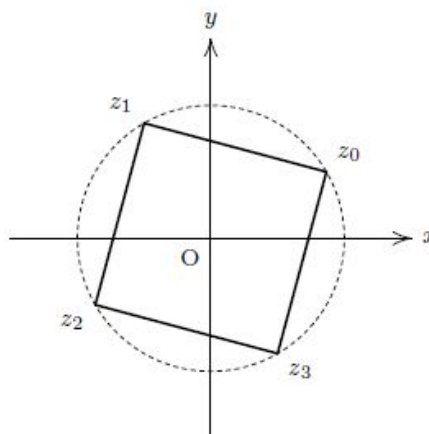
$$\begin{cases} r = 2, \\ \theta = \frac{\pi}{6} + \frac{n}{2}\pi. \quad (n = 0, 1, 2, 3) \end{cases}$$

これより、 $n = 0, 1, 2, 3$ に対して、

$$\dots \textcircled{1} \quad z_n = 2 \left\{ \cos \left(\frac{\pi}{6} + \frac{n}{2}\pi \right) + i \sin \left(\frac{\pi}{6} + \frac{n}{2}\pi \right) \right\}$$

とすると、 z_0, z_1, z_2, z_3 は①の解であり、これらを複素数

$\dots \textcircled{2}$ 平面上に図示すると、次の図の正方形の4つの頂点である。



$\dots \textcircled{3}$

$\dots \textcircled{4}$

図より、①の解のうち、虚部が最大であるものは、

$$\begin{aligned} z_1 &= 2 \left\{ \cos \left(\frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{2} \right) + i \sin \left(\frac{\pi}{6} + \frac{\pi}{2} \right) \right\} \\ &= -1 + \sqrt{3}i. \end{aligned}$$

7-3 (r34-1)

複素数平面上の3点 $O(0)$, $A(\alpha)$, $B(\beta)$ を頂点とする三角形 OAB の面積を S とすると、

$$S = \frac{1}{4} |\bar{\alpha}\beta - \alpha\bar{\beta}|$$

と表されることを示せ。ただし、 $\bar{\alpha}$, $\bar{\beta}$ はそれぞれ α , β と共役な複素数とする。

実数 x_1, y_1, x_2, y_2 を用いて、

$$\begin{cases} \alpha = x_1 + y_1i, \\ \beta = x_2 + y_2i \end{cases}$$

とし、座標平面上で考えると、

$$S = \frac{1}{2} |x_1y_2 - x_2y_1|. \quad \dots \textcircled{1}$$

また、

$$\begin{aligned} \bar{\alpha}\beta - \alpha\bar{\beta} &= (x_1 - y_1i)(x_2 + y_2i) - (x_1 + y_1i)(x_2 - y_2i) \\ &= 2(x_1y_2 - x_2y_1)i \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{aligned} \frac{1}{4} |\bar{\alpha}\beta - \alpha\bar{\beta}| &= \frac{1}{4} |2(x_1y_2 - x_2y_1)i| \\ &= \frac{1}{2} |x_1y_2 - x_2y_1|. \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

①、②より、

$$S = \frac{1}{4} |\bar{\alpha}\beta - \alpha\bar{\beta}|.$$

7-4 (r36-2)

0でない異なる2つの複素数 α, β があり, $\alpha^2 - \alpha\beta + \beta^2 = 0, |\alpha - \beta| = 2$ を満たす.

(1) $\frac{\alpha}{\beta}$ を求めよ.

(2) 複素数平面上で, $0, \alpha, \beta$ を表す点をそれぞれ O, A, B とするとき, 三角形 OAB の面積を求めよ.

(1) $\alpha^2 - \alpha\beta + \beta^2 = 0$ の両辺を β^2 で割ると,

$$\left(\frac{\alpha}{\beta}\right)^2 - \frac{\alpha}{\beta} + 1 = 0$$

であるから,

$$\frac{\alpha}{\beta} = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}.$$

(2) (1) の結果より,

$$\frac{\alpha}{\beta} = \cos\left(\pm\frac{\pi}{3}\right) + i\sin\left(\pm\frac{\pi}{3}\right)$$

であるから,

これより,

$$\begin{cases} \left|\frac{\alpha}{\beta}\right| = 1, \\ \arg\frac{\alpha}{\beta} = \pm\frac{\pi}{3}. \end{cases}$$

$$\begin{cases} OA = OB, \\ \angle AOB = 60^\circ. \end{cases} \quad \dots \textcircled{1}$$

また, $|\alpha - \beta| = 2$ より,

$$AB = 2. \quad \dots \textcircled{2}$$

①, ②より, 三角形 OAB は1辺の長さが2の正三角形であるから, 求める面積を S とすると,

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2} \cdot 2^2 \sin 60^\circ \\ &= \sqrt{3}. \end{aligned}$$

7-5 (r40-1)

複素数平面上で点 z が2点 $1 - \frac{i}{2}, -\frac{1}{2} + i$ を通る直線上を動くとき, $\frac{1}{z}$ はどのような

図形を描くか.

実数 x, y を用いて、 $z = x + yi$ と表すとき、点 z が
2点 $1 - \frac{i}{2}$, $-\frac{1}{2} + i$ を通ることから、

$$\begin{cases} x + yi = 1 - \frac{i}{2}, \\ x + yi = -\frac{1}{2} + i. \end{cases}$$

これより、

$$(x, y) = \left(1, -\frac{1}{2}\right), \left(-\frac{1}{2}, 1\right)$$

であるから、

$$x + y = \frac{1}{2}. \quad \dots \textcircled{1}$$

さらに、 $w = \frac{1}{z}$ において、

$$w \neq 0 \quad \dots \textcircled{2}$$

であり、

$$z = \frac{1}{w}. \quad \dots \textcircled{3}$$

ここで、実数 u, v を用いて、

$w = u + vi$ と表すとき、 $\textcircled{3}$ より、

$$\begin{aligned} x + yi &= \frac{1}{u + vi} \\ &= \frac{u}{u^2 + v^2} - \frac{v}{u^2 + v^2}i \end{aligned}$$

であるから、

$$\begin{cases} x = \frac{u}{u^2 + v^2}, \\ y = -\frac{v}{u^2 + v^2}. \end{cases} \quad \dots \textcircled{4}$$

$\textcircled{1}$, $\textcircled{4}$ より、

$$\frac{u}{u^2 + v^2} - \frac{v}{u^2 + v^2} = \frac{1}{2}$$

であるから、

$$u^2 + v^2 = 2u - 2v$$

$$(u - 1)^2 + (v + 1)^2 = 2. \quad \dots \textcircled{5}$$

$\textcircled{2}$, $\textcircled{5}$ より、点 w は、

点 $1 - i$ を中心とする半径 $\sqrt{2}$ の円を描く。ただし、原点は除く。

7-6 (j3-3)

複素数平面上の相異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(\gamma)$ に対して、

$$(3 + 9i)\alpha - (8 + 4i)\beta + (5 - 5i)\gamma = 0$$

が成り立つとき、次の問に答えよ。

(1) $\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma}$ の実部と虚部を求めよ。

(2) $\angle ACB$ の大きさと $\frac{BC}{AC}$ を求めよ。

(3) $\frac{AB}{AC}$ を求めよ。

(1) 条件

$$(3 + 9i)\alpha - (8 + 4i)\beta + (5 - 5i)\gamma = 0$$

より,

$$(8 + 4i)\beta = (3 + 9i)\alpha + (5 - 5i)\gamma$$

であるから,

$$\begin{aligned} \frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma} &= \frac{(8 + 4i)(\beta - \gamma)}{(8 + 4i)(\alpha - \gamma)} \\ &= \frac{(3 + 9i)\alpha + (5 - 5i)\gamma - (8 + 4i)\gamma}{(8 + 4i)(\alpha - \gamma)} \\ &= \frac{(3 + 9i)(\alpha - \gamma)}{(8 + 4i)(\alpha - \gamma)} \\ &= \frac{(3 + 9i)(8 - 4i)}{8^2 + 4^2} \\ &= \frac{3}{4} + \frac{3}{4}i. \end{aligned}$$

したがって, $\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma}$ の実部, 虚部はともに,
 $\frac{3}{4}$.

(2) (1) より,

$$\frac{\beta - \gamma}{\alpha - \gamma} = \frac{3\sqrt{2}}{4} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

であるから,

$$\begin{cases} \angle ACB = 45^\circ, \\ \frac{BC}{AC} = \frac{3\sqrt{2}}{4}. \end{cases}$$

(3) (2) の結果より, 実数 t を用いて,

$$BC = 3\sqrt{2}t, \quad AC = 4t$$

とおけるから, 三角形 ABC に余弦定理を用いると,

$$\begin{aligned} AB^2 &= (3\sqrt{2}t)^2 + (4t)^2 - 2 \cdot 3\sqrt{2}t \cdot 4t \cdot \frac{1}{\sqrt{2}} \\ &= 10t^2. \end{aligned}$$

これより,

$$AB = \sqrt{10}t$$

であるから,

$$\frac{AB}{AC} = \frac{\sqrt{10}}{4}.$$

7-7 (s3-1)

x に関する方程式

$$x^5 + x^4 - x^3 + x^2 - (a + 1)x + a = 0$$

が, 虚軸上の複素数を解にもつような実数 a をすべて求めよ.

虚軸上の複素数 α は, 実数 t を用いて,

$$\alpha = ti$$

とおける.

α が方程式

$$x^5 + x^4 - x^3 + x^2 - (a + 1)x + a = 0 \quad \dots (*)$$

の解である条件は,

$$(ti)^5 + (ti)^4 - (ti)^3 + (ti)^2 - (a + 1)ti + a = 0$$

であるから,

$$t^5 i + t^4 + t^3 i - t^2 - (a + 1)ti + a = 0$$

$$t^4 - t^2 + a + i\{t^5 + t^3 - (a + 1)t\} = 0.$$

ここで, t, a は実数, i は虚数であるから,

$$\begin{cases} t^4 - t^2 + a = 0, \\ t^5 + t^3 - (a + 1)t = 0. \end{cases}$$

a を消去すると,

$$t^5 + t^3 - \{(t^2 - t^4) + 1\}t = 0$$

$$t(2t^4 - 1) = 0$$

であるから, t は実数より,

$$t = 0 \text{ または } t^2 = \frac{1}{\sqrt{2}}.$$

$t = 0$ のとき,

$$a = 0.$$

$t^2 = \frac{1}{\sqrt{2}}$ のとき,

$$a = \frac{\sqrt{2} - 1}{2}.$$

以上より, 求める a の値は,

$$a = 0, \quad \frac{\sqrt{2} - 1}{2}.$$

7-8 (s7-1)

$t = \cos \theta$ とする. 自然数 n について, ド・モアブルの定理

$$(\cos \theta + i \sin \theta)^n = \cos n\theta + i \sin n\theta$$

が成り立つことにより $\cos n\theta$ を t の n 次多項式として表すことができる. この多項式を $f_n(t)$ とし, 変数 t についての $f_n(t)$ の導関数を $f_n'(t)$ とする.

(1) $f_6(t)$ を求めよ.

(2) 自然数 m について $f_{2m}(t)$ の t^{2m} の係数を求めよ.

(3) $\{f_n(t)\}^2 + (1-t^2) \left\{ \frac{1}{n} f_n'(t) \right\}^2 = 1$ が成り立つことを示せ.

複素数 z の実部を $\operatorname{Re}(z)$ と表すこととする.

(1) ド・モアブルの定理より,

$$\begin{aligned} \cos 6\theta &= \operatorname{Re}((\cos \theta + i \sin \theta)^6) \\ &= \cos^6 \theta - 15 \cos^4 \theta \sin^2 \theta + 15 \cos^2 \theta \sin^4 \theta - \sin^6 \theta \end{aligned}$$

であるから, $f_6(t)$ の定め方より,

$$\begin{aligned} f_6(t) &= t^6 + 15t^4(t^2 - 1) + 15t^2(t^2 - 1)^2 + (t^2 - 1)^3 \\ &= 32t^6 - 48t^4 + 18t^2 - 1. \end{aligned}$$

(2) (1) と同様にとすると,

$$\begin{aligned} \cos 2m\theta &= \operatorname{Re}((\cos \theta + i \sin \theta)^{2m}) \\ &= \sum_{k=0}^{2m} 2m C_{2k} \cos^{2m-2k} \theta \cdot i^{2k} \cdot \sin^{2k} \theta \\ &= \sum_{k=0}^{2m} 2m C_{2k} \cos^{2m-2k} \theta \cdot (-\sin^2 \theta)^k \\ &= \sum_{k=0}^{2m} 2m C_{2k} \cos^{2m-2k} \theta (\cos^2 \theta - 1)^k \end{aligned}$$

であるから, $f_{2m}(t)$ の定め方より,

$$f_{2m}(t) = \sum_{k=0}^{2m} 2m C_{2k} t^{2m-2k} (t^2 - 1)^k.$$

これより, $f_{2m}(t)$ の t^{2m} の係数を S とすると,

$$\begin{aligned} S &= \sum_{k=0}^{2m} 2m C_{2k} \\ &= 2m C_0 + 2m C_2 + 2m C_4 + \cdots + 2m C_{2m}. \end{aligned}$$

ここで,

$$\begin{cases} 2m C_0 + 2m C_1 + 2m C_2 + 2m C_3 + \cdots + 2m C_{2m} = (1+1)^{2m} \\ 2m C_0 - 2m C_1 + 2m C_2 - 2m C_3 + \cdots + 2m C_{2m} = (1-1)^{2m} \end{cases}$$

であるから,

$$2(2m C_0 + 2m C_2 + 2m C_4 + \cdots + 2m C_{2m}) = 2^{2m}.$$

したがって,

$$S = 2^{2m-1}.$$

(3) $f_n(\cos \theta) = \cos n\theta$ の両辺を θ で微分すると,

$$f_n'(\cos \theta)(-\sin \theta) = -n \sin n\theta$$

であるから,

$$f_n'(\cos \theta) = \frac{n \sin n\theta}{\sin \theta}.$$

したがって,

$$\begin{aligned} &\{f_n(t)\}^2 + (1-t^2) \left\{ \frac{1}{n} f_n'(t) \right\}^2 \\ &= \{f_n(\cos \theta)\}^2 + (1-\cos^2 \theta) \left\{ \frac{1}{n} f_n'(\cos \theta) \right\}^2 \\ &= \cos^2 n\theta + \sin^2 \theta \left(\frac{\sin n\theta}{\sin \theta} \right)^2 \\ &= 1 \end{aligned}$$

であるから, 示せた.

7-9 (j12-4)

複素数 z を与えたとき、複素数 w は、

$$w = \frac{z + p}{qz + r}$$

で定まるものとする。ただし、 p, q, r は複素数の定数である。 $z = 0, i, -i$ のとき w はそれぞれ $w = 1, -1, 0$ となる。

(1) p, q, r を求めよ。

(2) $|w| = 1$ を満たすような z の集合を複素数平面上に図示せよ。

これより、

$$|z + i| = |3z - i|$$

$$(z + i)(\bar{z} - i) = (3z - i)(3\bar{z} + i)$$

$$z\bar{z} + \frac{i}{2}z - \frac{i}{2}\bar{z} = 0$$

$$\left|z - \frac{1}{2}i\right| = \frac{1}{2}$$

であるから、点 z の集合を図示すると、次の図の、点 $\frac{1}{2}i$ を中心とする半径 $\frac{1}{2}$ の円である。

(1) 条件より、

$$\begin{cases} \frac{p}{r} = 1, \\ \frac{i + p}{qi + r} = -1, \\ \frac{-i + p}{-qi + r} = 0 \end{cases}$$

であるから、 q は実数より、

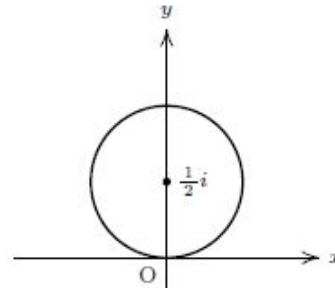
$$p = i, \quad q = -3, \quad r = i.$$

(2) (1) の結果より、

$$w = \frac{z + i}{-3z + i}$$

であるから、 $|w| = 1$ のとき、

$$\left| \frac{z + i}{-3z + i} \right| = 1.$$



7-10 (s12-1)

$\frac{z}{2} + \frac{1}{z}$ が 0 以上 2 以下の実数であるような複素数 z ($z \neq 0$) を表す複素数平面上の点の

集合を、式で表し、図示せよ。

$$0 \leq \frac{z}{2} + \frac{1}{z} \leq 2 \text{ より,} \quad 0 \leq z + \frac{2}{z} \leq 4 \quad \dots (*)$$

を満たす複素数 z について考える.

(i) z が実数のとき, (*) より,

$$\begin{cases} z > 0, \\ z^2 - 4z + 2 \leq 0 \end{cases}$$

であるから,

$$2 - \sqrt{2} \leq z \leq 2 + \sqrt{2}.$$

(ii) z が虚数のとき, 正の実数 r と $0 < \theta < 2\pi$ かつ $\theta \neq \pi$

を満たす θ を用いて,

$$z = r(\cos \theta + i \sin \theta)$$

とおける.

このとき,

$$\begin{aligned} z + \frac{2}{z} &= r(\cos \theta + i \sin \theta) + \frac{2}{r(\cos \theta + i \sin \theta)} \\ &= r(\cos \theta + i \sin \theta) + \frac{2}{r}(\cos \theta - i \sin \theta) \\ &= \left(r + \frac{2}{r}\right) \cos \theta + i \left(r - \frac{2}{r}\right) \sin \theta \end{aligned}$$

であるから, (*) が成り立つための条件は,

$$\begin{cases} r - \frac{2}{r} = 0, \\ 0 \leq \left(r + \frac{2}{r}\right) \cos \theta \leq 4. \end{cases}$$

$r > 0$ より,

$$\begin{cases} r = \sqrt{2}, \\ 0 \leq \cos \theta \leq \sqrt{2} \end{cases}$$

であるから, $0 < \theta < 2\pi$ かつ $\theta \neq \pi$ より,

$$\begin{cases} r = \sqrt{2}, \\ 0 < \theta \leq \frac{\pi}{2}, \quad \frac{3}{2}\pi \leq \theta < 2\pi. \end{cases}$$

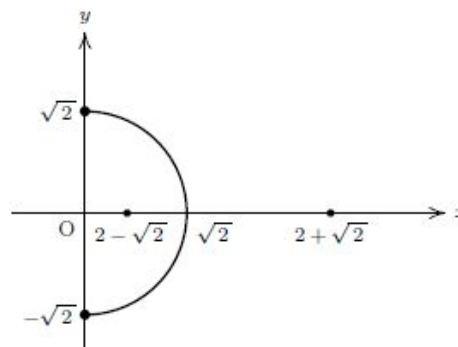
(i), (ii) より, 複素数 z を表す点の集合は,

$$2 - \sqrt{2} \leq z \leq 2 + \sqrt{2}$$

または,

$$z = \sqrt{2}(\cos \theta + i \sin \theta) \quad \left(0 < \theta \leq \frac{\pi}{2} \text{ または } \frac{3}{2}\pi \leq \theta < 2\pi\right).$$

これを図示すると, 次の図の太線部分である.



7-11 (j24-4)

$(1 + i)^n + (1 - i)^n = 32$ を満たす最小の整数 n の値を求めよ.

$1 + i, 1 - i$ を極形式に直すと,

$$1 + i = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right),$$

$$1 - i = \sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} - i \sin \frac{\pi}{4} \right)$$

であるから,

$$(1 + i)^n = (\sqrt{2})^n \left(\cos \frac{n}{4}\pi + i \sin \frac{n}{4}\pi \right),$$

$$(1 - i)^n = (\sqrt{2})^n \left(\cos \frac{n}{4}\pi - i \sin \frac{n}{4}\pi \right).$$

したがって,

$$(1 + i)^n + (1 - i)^n = 2(\sqrt{2})^n \cos \frac{n}{4}\pi$$

であるから,

$$(1 + i)^n + (1 - i)^n = 32 \quad \dots \textcircled{1}$$

のとき,

$$(\sqrt{2})^n \cos \frac{n}{4}\pi = 16. \quad \dots \textcircled{2}$$

ここで,

$$\cos \frac{n}{4}\pi = \begin{cases} 1 & (n \equiv 0 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ \frac{\sqrt{2}}{2} & (n \equiv 1 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ 0 & (n \equiv 2 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ -\frac{\sqrt{2}}{2} & (n \equiv 3 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ -1 & (n \equiv 4 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ -\frac{\sqrt{2}}{2} & (n \equiv 5 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ 0 & (n \equiv 6 \pmod{8} \text{ のとき}), \\ \frac{\sqrt{2}}{2} & (n \equiv 7 \pmod{8} \text{ のとき}) \end{cases}$$

であるから, ②が成り立つためには, n を 8 で割った余りは,

$$0, 1, 7$$

のときが必要である.

さらに,

$$\cos \frac{n}{4}\pi \leq 1$$

であるから, ②が成り立つためには,

$$n \geq 8$$

であることが必要である.

ここで, $n = 8$ のとき,

$$\textcircled{2} \text{の左辺} = 16$$

であるから, ②は成り立つ.

以上より, ①を満たす最小の整数 n の値は,

$$n = 8.$$

7-12 (s27-3)

実数を係数とする3次方程式

$$x^3 + px^2 + qx + r = 0$$

は、相異なる虚数解 α , β と実数解 γ をもつとする。

- (1) $\beta = \bar{\alpha}$ が成り立つことを証明せよ。ここで、 $\bar{\alpha}$ は α と共役な複素数を表す。
- (2) α , β , γ が等式 $\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = 3$ を満たし、さらに複素数平面上で α , β , γ を表す3点は一辺の長さが $\sqrt{3}$ の正三角形をなすものとする。このとき、実数の組 (p, q, r) をすべて求めよ。

(1) $f(x) = x^3 + px^2 + qx + r$ とすると、 α が $f(x) = 0$ の解である条件は、

$$f(\alpha) = 0.$$

このとき、

$$\begin{aligned} f(\bar{\alpha}) &= (\bar{\alpha})^3 + p(\bar{\alpha})^2 + q\bar{\alpha} + r \\ &= \overline{\alpha^3 + p\alpha^2 + q\alpha + r} \\ &= \overline{f(\alpha)} \\ &= 0 \end{aligned}$$

であるから、 $\bar{\alpha}$ は $f(x) = 0$ の解である。

さらに、 α が虚数であることから、 $\bar{\alpha} \neq \alpha$

であり、 $f(x) = 0$ が異なる虚数解 α , β をもつことから、

$$\beta = \bar{\alpha}.$$

(2) (1) より、 α と β は共役であるから、 α , β の表す2点は実軸に関して対称である。

さらに、 α , β , γ を表す3点が一辺の長さが $\sqrt{3}$ の正三角形であるから、

$$(\alpha, \beta) = \left(\gamma - \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \gamma - \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \quad \dots \textcircled{1}$$

または、

$$(\alpha, \beta) = \left(\gamma + \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \gamma + \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i \right) \quad \dots \textcircled{2}$$

としてよい。

また、 $\alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = 3$ であるから、

$$\textcircled{1} \iff \left(\gamma - \frac{3}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} + \gamma(2\gamma - 3) = 3$$

$$\iff 3\gamma(\gamma - 2) = 0$$

$$\iff \gamma = 0, 2$$

$$\textcircled{2} \iff \left(\gamma + \frac{3}{2} \right)^2 + \frac{3}{4} + \gamma(2\gamma + 3) = 3$$

$$\iff 3\gamma(\gamma + 2) = 0$$

$$\iff \gamma = 0, -2.$$

したがって、 $f(x) = 0$ の3つの解は、

$$(i) \quad -\frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad -\frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad 0,$$

$$(ii) \quad \frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad \frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad 2,$$

$$(iii) \quad \frac{3}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad \frac{3}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad 0,$$

$$(iv) \quad -\frac{1}{2} + \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2}i, \quad -2.$$

さらに、

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma = -p, \\ \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = q, \\ \alpha\beta\gamma = -r \end{cases}$$

であるから、

$$(p, q, r) = (3, 3, 0), (-3, 3, 2),$$

$$(-3, 3, 0), (3, 3, -2).$$

7-13 (j33-2)

複素数平面上で、点 $P(1 - \sqrt{3}i)$ を中心とする円に内接する正三角形がある。

この正三角形の頂点の1つが点 $A(2)$ であるとき、残りの2つの頂点を表す複素数を求めよ。ただし、 i は虚数単位とする。

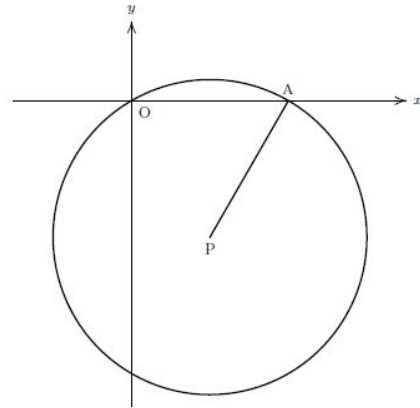
残りの2つの頂点のうち、実部が小さい方の点を表す複素数を z_1 、大きい方の点を表す複素数を z_2 とする。

このとき、

$$\begin{aligned} z_1 &= \{2 - (1 - \sqrt{3}i)\}(\cos 120^\circ + i \sin 120^\circ) + (1 - \sqrt{3}i) \\ &= \frac{1}{2}(1 + \sqrt{3}i)(-1 + \sqrt{3}i) + (1 - \sqrt{3}i) \\ &= -1 - \sqrt{3}i, \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} z_2 &= \{2 - (1 - \sqrt{3}i)\}(\cos(-120)^\circ + i \sin(-120)^\circ) + (1 - \sqrt{3}i) \\ &= \frac{1}{2}(1 + \sqrt{3}i)(-1 - \sqrt{3}i) + (1 - \sqrt{3}i) \\ &= 2 - 2\sqrt{3}i \end{aligned}$$

であるから、残りの2つの頂点を表す複素数は、
 $-1 - \sqrt{3}i, 2 - 2\sqrt{3}i$



7-14 (s34-2)

- (1) 方程式 $x^3 = 1$ および $x^3 = -1$ の解をそれぞれ求めよ。
 (2) k を実数の定数とする。方程式 $x^2 + kx + 1 = 0$ が異なる2つの解をもち、一方が他方の5乗となるように、 k の値を定めよ。また、そのときの2つの解を求めよ。

(1) $x^3 = 1$ より、

$$(x-1)(x^2+x+1) = 0$$

であるから、 $x^3 = 1$ の解は、

$$x = 1, \frac{-1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

また、 $x^3 = -1$ より、

$$(x+1)(x^2-x+1) = 0$$

であるから、 $x^3 = -1$ の解は、

$$x = -1, \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

(2) $x^2 + kx + 1 = 0$ が異なる2つの解をもつから、

$$k \neq \pm 2, \quad \dots \textcircled{1}$$

条件より、2つの解は α, α^5 とおけるから、

$$\alpha + \alpha^5 = -k, \quad \dots \textcircled{2}$$

$$\alpha\alpha^5 = 1, \quad \dots \textcircled{3}$$

③より、

$$\alpha = \pm 1, \frac{-1 \pm \sqrt{3}i}{2}, \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

$\alpha = \pm 1$ のとき、②より、

$$k = \pm 2, \quad (\textcircled{1} \text{に反する})$$

$$\alpha = \frac{-1 \pm \sqrt{3}i}{2} \text{ のとき,}$$

$$\begin{cases} \alpha^3 = 1, \\ \alpha^2 + \alpha + 1 = 0 \end{cases}$$

であるから、②より、

$$k = 1,$$

$$\alpha = \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2} \text{ のとき,}$$

$$\begin{cases} \alpha^3 = -1, \\ \alpha^2 - \alpha + 1 = 0 \end{cases}$$

であるから、②より、

$$k = -1,$$

以上より、

$$k = 1, \text{ 2つの解は } \frac{-1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

$$k = -1, \text{ 2つの解は } \frac{1 \pm \sqrt{3}i}{2}$$

7-15 (j36-3)

複素数平面上に条件 $\frac{z_2}{z_1} = 2 + 2i$, $|z_2 - z_1| = 2$ を満たす 2 点 $P(z_1)$, $Q(z_2)$ がある.

ただし, i は虚数単位, O は原点とする.

- (1) $\angle POQ$ の大きさを求めよ.
- (2) 線分 OQ の長さを求めよ.
- (3) $\sin \angle OPQ$ の値を求めよ.

(1) 条件 $\frac{z_2}{z_1} = 2 + 2i$ より,

$$\frac{z_2}{z_1} = 2\sqrt{2} \left(\cos \frac{\pi}{4} + i \sin \frac{\pi}{4} \right) \quad \dots \textcircled{1}$$

であるから,

$$\angle POQ = \frac{\pi}{4}. \quad \dots \textcircled{2}$$

(2) 条件 $|z_2 - z_1| = 2$ より,

$$PQ = 2,$$

また, ①より,

$$OP : OQ = 1 : 2\sqrt{2}$$

であるから, 正の実数 t を用いて,

$$OP = t, \quad OQ = 2\sqrt{2}t$$

とおける.

ここで, 三角形 OPQ に余弦定理を用いると,

$$2^2 = t^2 + (2\sqrt{2}t)^2 - 2 \cdot t \cdot 2\sqrt{2}t \cos \frac{\pi}{4}$$

であるから,

$$t^2 = \frac{4}{5},$$

$t > 0$ より,

$$t = \frac{2\sqrt{5}}{5}$$

なので,

$$OQ = 2\sqrt{2} \cdot \frac{2\sqrt{5}}{5} = \frac{4\sqrt{10}}{5}.$$

(3) 三角形 OPQ に正弦定理を用いると,

$$\frac{OQ}{\sin \angle OPQ} = \frac{2}{\sin \frac{\pi}{4}}$$

であるから, (2) より,

$$\sin \angle OPQ = \frac{\sin \frac{\pi}{4} \cdot OQ}{2} = \frac{1}{\sqrt{2}} \cdot \frac{4\sqrt{10}}{5} = \frac{2\sqrt{5}}{5}.$$

7-16 (j37-1)

複素数平面上に, 原点とは異なり, 偏角が 35° である点 $P(z)$ をとる.

- (1) z^n が実数となるような最小の自然数 n の値を求めよ.
- (2) z^n が純虚数となるような最小の自然数 n の値を求めよ.

z の定め方より,

$$\arg z = 35^\circ$$

であるから,

$$\arg z^n = 35^\circ \times n. \quad \dots \textcircled{1}$$

(1) z^n が実数である条件は,

$$\arg z^n = 180^\circ \times k \quad \dots \textcircled{2}$$

を満たす整数 k が存在することである.

①, ②より,

$$35^\circ \times n = 180^\circ \times k$$

であるから,

$$k = \frac{7}{36}n.$$

これより, k が整数であるための条件は,

n が 36 の倍数であること

なので, 求める最小の自然数 n は,

$$n = 36.$$

(2) z^n が純虚数である条件は、

$$\arg z^n = 90^\circ \times (2l-1) \quad \dots \textcircled{3}$$

を満たす整数 l が存在することである。

①, ③より、

$$35^\circ \times n = 90^\circ \times (2l-1)$$

であるから、

$$2l-1 = \frac{7}{18}n,$$

これより、 l が整数であるための条件は、

n が 18 の倍数であること

が必要なので、求める最小の自然数 n は、

$$n = 18.$$

7-17 (j40-1)

複素数に関する次の問に答えよ。ただし、 i は虚数単位とする。

(1) 方程式 $z^3 = i$ の 3 つの解 z_1, z_2, z_3 を求めよ。

ただし、 $0 \leq \arg z_1 < \arg z_2 < \arg z_3 < 2\pi$ とする。

(2) 等式 $z\bar{z} + 2(z + \bar{z}) + 2\sqrt{3}i(z - \bar{z}) + 12 = 0$ を満たす点 z 全体が表す図形を求め、その図形を複素数平面上に図示せよ。

(3) a を正の実数とする。複素数 z_0 は $z_0^3 = ia$ を満たし、かつ z_0 の表す点が (2) で求めた図形上にあるとする。このとき、 a と z_0 の値をそれぞれ求めよ。

(1) z_1, z_2, z_3 の定め方より、

$$\begin{aligned} z_1 &= \cos \frac{\pi}{6} + i \sin \frac{\pi}{6} \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i, \\ z_2 &= \cos \frac{5}{6}\pi + i \sin \frac{5}{6}\pi \\ &= -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2}i, \\ z_3 &= \cos \frac{3}{2}\pi + i \sin \frac{3}{2}\pi \\ &= -i. \end{aligned}$$

(2) $\alpha = 2(1 - \sqrt{3}i)$ として、等式

$$z\bar{z} + 2(z + \bar{z}) + 2\sqrt{3}i(z - \bar{z}) + 12 = 0$$

を変形すると、

$$z\bar{z} + 2(1 - \sqrt{3}i)\bar{z} + 2(1 + \sqrt{3}i)z + 12 = 0$$

$$(z + \alpha)(\bar{z} + \bar{\alpha}) - |\alpha|^2 + 12 = 0$$

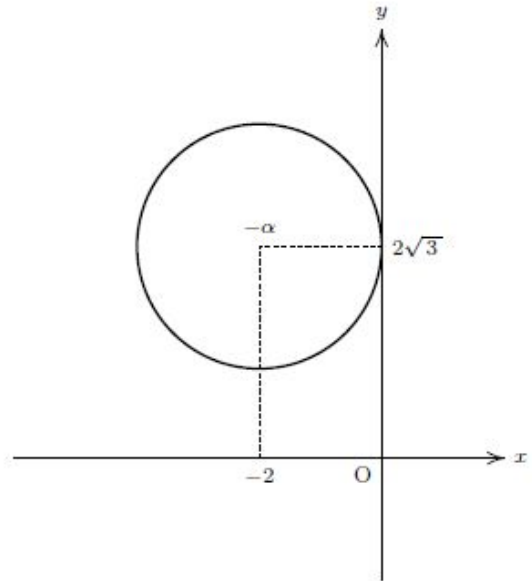
$$|z + \alpha|^2 = 4$$

$$|z - (-\alpha)| = 2$$

であるから、点 z 全体が表す図形は、

点 $(-\alpha) = -2 + 2\sqrt{3}i$ を中心とする半径 2 の円。

これを図示すると、次の図のようになる。



(3) 条件を偏角について考えれば、

$$\begin{aligned} z_0 &= 2\sqrt{3} \left(\cos \frac{5}{6}\pi + i \sin \frac{5}{6}\pi \right) \\ &= -3 + \sqrt{3}i. \end{aligned}$$

さらに、 $z_0 = 2\sqrt{3}z_2$ であるから、

$$a = (2\sqrt{3})^3 = 24\sqrt{3}.$$

7-18 (s40-1)

複素数平面上の点 $a_1, a_2, a_3, \dots, a_n, \dots$ を

$$a_1 = 1, \quad a_2 = i, \quad a_{n+2} = a_{n+1} + a_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$$

により定め、 $b_n = \frac{a_{n+1}}{a_n} \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$ とする、

(1) 3点 b_1, b_2, b_3 を通る円 C の中心と半径を求めよ、

(2) すべての点 $b_n \quad (n = 1, 2, 3, \dots)$ は円 C の周上にあることを示せ、

(1) 点列 $\{a_n\}$ の定め方より、帰納的にすべての自然数 n に対して、

$$a_n \neq 0$$

であるから、

$$a_{n+2} = a_{n+1} + a_n$$

の両辺を a_{n+1} で割ると、

$$\frac{a_{n+2}}{a_{n+1}} = 1 + \frac{a_n}{a_{n+1}}$$

さらに、 $b_n = \frac{a_{n+1}}{a_n}$ のとき、

$$b_{n+1} = 1 + \frac{1}{b_n}$$

さらに、

$$b_1 = \frac{a_2}{a_1} = i$$

であるから、

$$b_2 = 1 + \frac{1}{i} = 1 - i,$$

$$b_3 = 1 + \frac{1}{1-i} = 1 + \frac{1+i}{2} = \frac{3}{2} + \frac{1}{2}i.$$

ここで、 xy 平面において、3点 $(0, 1), (1, -1), \left(\frac{3}{2}, \frac{1}{2}\right)$ を通る円の方程式を

$$x^2 + y^2 + ax + by + c = 0$$

とすると、

$$\begin{cases} 1 + b + c = 0, \\ 2 + a - b + c = 0, \\ \frac{5}{2} + \frac{3}{2}a + \frac{1}{2}b + c = 0. \end{cases}$$

これを解くと、

$$a = -1, \quad b = 0, \quad c = -1$$

であるから、

$$x^2 + y^2 - x - 1 = 0$$

$$\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + y^2 = \frac{5}{4}.$$

したがって、3点 b_1, b_2, b_3 を通る円の中心は、

$$\frac{1}{2}$$

であり、半径は、

$$\frac{\sqrt{5}}{2}.$$

(2) すべての自然数 n に対して、

$$\text{点 } b_n \text{ が円 } C \text{ の周上にある} \quad \dots (*)$$

ことを数学的帰納法を用いて示す、

(I) $n = 1$ のとき、

(1) より、点 b_1 は円 C の周上にあるから、(*) は成り立つ、

(II) $n = k$ のとき、(*) が成り立つと仮定する、すなわち、点 b_k が円 C の周上にあるとする、

このとき、

$$\left|b_k - \frac{1}{2}\right|^2 = \frac{5}{4}$$

であるから、

$$|b_k|^2 - \frac{1}{2}(b_k + \overline{b_k}) = 1$$

$$b_k + \overline{b_k} = 2|b_k|^2 - 2.$$

これより、

$$\begin{aligned} \left|b_{k+1} - \frac{1}{2}\right|^2 &= \left|1 + \frac{1}{b_k} - \frac{1}{2}\right|^2 \\ &= \left|\frac{b_k + 2}{2b_k}\right|^2 \\ &= \frac{|b_k|^2 + 2(b_k + \overline{b_k}) + 4}{4|b_k|^2} \\ &= \frac{|b_k|^2 + 2(2|b_k|^2 - 2) + 4}{4|b_k|^2} \\ &= \frac{5}{4} \end{aligned}$$

であるから、点 b_{k+1} は円 C の周上にある、

よって、(*) は $n = k + 1$ のときも成り立つ、

(I)、(II) より、すべての自然数 n に対して、点 b_n は円 C の周上にある、

7-19 (s41-4)

複素数平面上に異なる3点 $A(\alpha)$, $B(\beta)$, $C(1)$ があり, 条件

$$\begin{cases} 3\alpha^2 + \beta^2 - 6\alpha - 2\beta + 4 = 0 \\ \alpha\beta \neq 0 \\ |\alpha - 1| = 1 \end{cases}$$

を満たしている.

(1) $\frac{\beta - 1}{\alpha - 1}$ を求めよ.

(2) 三角形 ABC の面積を求めよ.

(3) 3点 $C(1)$, $D\left(\frac{1}{\alpha}\right)$, $E\left(\frac{1}{\beta}\right)$ が一直線上にあるとき, α を求めよ.

(1) $3\alpha^2 + \beta^2 - 6\alpha - 2\beta + 4 = 0$ より,
 $3(\alpha - 1)^2 + (\beta - 1)^2 = 0.$... ①

ここで,

$$|\alpha - 1| = 1 \quad \dots \text{②}$$

より,

$$\alpha - 1 \neq 0$$

であるから, ③の両辺を $(\alpha - 1)^2$ で割ると,

$$\left(\frac{\beta - 1}{\alpha - 1}\right)^2 = -3.$$

これより,

$$\frac{\beta - 1}{\alpha - 1} = \pm\sqrt{3}i. \quad \dots \text{③}$$

(2) ③より,

$$|\beta - 1| = \sqrt{3}|\alpha - 1|. \quad \dots \text{④}$$

②, ③, ④より,

$$AC = 1, \quad BC = \sqrt{3}, \quad \angle BCA = 90^\circ$$

であるから, 三角形 ABC の面積は,

$$\frac{\sqrt{3}}{2}.$$

(3) ③より,

$$\begin{aligned} \frac{1 - \frac{1}{\beta}}{1 - \frac{1}{\alpha}} &= \frac{\alpha}{\beta} \cdot \frac{\beta - 1}{\alpha - 1} \\ &= \pm\sqrt{3}i \cdot \frac{\alpha}{\beta} \end{aligned}$$

であり, 3点 $C(1)$, $D\left(\frac{1}{\alpha}\right)$, $E\left(\frac{1}{\beta}\right)$ が一直線上にある条件は,

$$\frac{1 - \frac{1}{\beta}}{1 - \frac{1}{\alpha}} \text{ が実数であること}$$

なので,

$$\frac{\alpha}{\beta}, \text{ すなわち, } \frac{\beta}{\alpha} \text{ が純虚数}$$

のときを考えればよい.

ここで, $\alpha\beta \neq 0$ および②より,

$$\alpha - 1 = \cos\theta + i\sin\theta \quad (-\pi < \theta < \pi)$$

とおけるから, ③より,

$$\begin{cases} \alpha = 1 + \cos\theta + i\sin\theta, \\ \beta = 1 \mp \sqrt{3}\sin\theta \pm \sqrt{3}i\cos\theta, \end{cases}$$

このとき,

$$\frac{\beta}{\alpha} = \frac{1 \mp \sqrt{3}\sin\theta \pm \sqrt{3}i\cos\theta}{1 + \cos\theta + i\sin\theta}.$$

これより,

$$\begin{aligned} \operatorname{Re}\left(\frac{\beta}{\alpha}\right) &= (1 + \cos\theta)(1 \mp \sqrt{3}\sin\theta) \pm \sqrt{3}\cos\theta\sin\theta \\ &= 1 \mp \sqrt{3}\sin\theta + \cos\theta \end{aligned}$$

であるから, $\frac{\beta}{\alpha}$ が純虚数となる条件は,

$$1 \mp \sqrt{3}\sin\theta + \cos\theta = 0$$

$$2\sin\left(\theta \mp \frac{\pi}{6}\right) = \pm 1$$

$$\sin\left(\theta \mp \frac{\pi}{6}\right) = \pm \frac{1}{2}.$$

$-\pi < \theta < \pi$ より,

$$\theta \mp \frac{\pi}{6} = \pm \frac{\pi}{6}$$

であるから,

$$\theta = \pm \frac{\pi}{3}.$$

したがって,

$$\alpha = \frac{3}{2} \pm \frac{\sqrt{3}}{2}i. \quad (\text{以上, 複号同順})$$

7-20 (s44-4)

z を複素数とする. 複素数平面上の 3 点 $A(1)$, $B(z)$, $C(z^2)$ が鋭角三角形をなすような z の範囲を求め, 図示せよ.

3 点 $A(1)$, $B(z)$, $C(z^2)$ が三角形の頂点であるから,

$$\begin{cases} 1 \neq z, \\ z \neq z^2, \\ z^2 \neq z^3 \end{cases}$$

より,

$$z \neq 0, 1.$$

(i) $\angle CAB$ が鋭角のとき,

$$\left| \arg \frac{z^2 - 1}{z - 1} \right| < \frac{\pi}{2}$$

であるから,

$$|\arg(z + 1)| < \frac{\pi}{2}.$$

これより,

$$\operatorname{Re}(z) > -1.$$

(ii) $\angle ABC$ が鋭角のとき,

$$\left| \arg \frac{z^2 - z}{1 - z} \right| < \frac{\pi}{2}$$

であるから,

$$|\arg(-z)| < \frac{\pi}{2}.$$

これより,

$$\operatorname{Re}(z) < 0.$$

(iii) $\angle BCA$ が鋭角のとき,

$$\left| \arg \frac{1 - z^2}{z - z^2} \right| < \frac{\pi}{2}$$

であるから,

$$\left| \arg \frac{z + 1}{z} \right| < \frac{\pi}{2}.$$

これより,

$$\operatorname{Re} \left(\frac{z + 1}{z} \right) > 0$$

であるから,

$$\frac{z + 1}{z} + \frac{\overline{z + 1}}{\overline{z}} > 0$$

$$\overline{z}(z + 1) + z\overline{(z + 1)} > 0$$

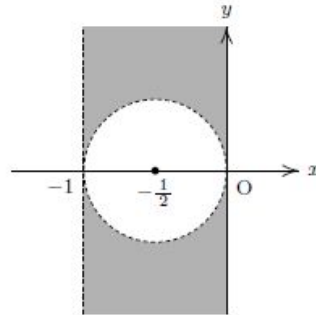
$$\left(z + \frac{1}{2} \right) \overline{\left(z + \frac{1}{2} \right)} > \frac{1}{4}$$

$$\left| z + \frac{1}{2} \right| > \frac{1}{2}.$$

(i), (ii), (iii) より, z に関する条件は,

$$\operatorname{Re}(z) > -1 \text{ かつ } \operatorname{Re}(z) < 0 \text{ かつ } \left| z + \frac{1}{2} \right| > \frac{1}{2}.$$

これを図示すると, 次の図の網目部分. ただし, 境界線上の点を含まない.



7-21 (s10-3)

複素数平面上に 0 と異なる 3 点 z_1, z_2, z_3 があり, 条件 (ア), (イ), (ウ) を満たしている.

(ア) $\arg z_1 = \arg z_2 + 120^\circ$

(イ) 点 z_3 は, 2 点 z_1, z_2 を通る直線に関して 0 と反対側にある.

(ウ) 三角形 $z_1z_2z_3$ は正三角形である.

このとき, 次の問に答えよ.

(1) $\alpha = \cos 60^\circ + i \sin 60^\circ$ とするとき,

$$\alpha z_1 = pz_1 + qz_2$$

$$\alpha z_2 = sz_1 + tz_2$$

となる実数 p, q, s, t をそれぞれ, $|z_1|, |z_2|$ を用いて表せ.

(2) $z_3 = az_1 + bz_2$ となる実数 a, b をそれぞれ, $|z_1|, |z_2|$ を用いて表せ.

(1) α の定め方より, 条件 (ア) より, 3 点 $\alpha z_1, 0, z_2$ はこの順に同一直線上にある.

よって,

$$\alpha z_1 = -\frac{|z_1|}{|z_2|}z_2.$$

また, 3 点 $0, z_2, \alpha z_2$ は正三角形の頂点であるから, 2 点 $0, z_1$ を通る直線と 2 点 $z_2, \alpha z_2$ を通る直線は平行である.

よって,

$$\alpha z_2 - z_2 = \frac{|z_2|}{|z_1|}z_1$$

であるから,

$$\alpha z_2 = \frac{|z_2|}{|z_1|}z_1 + z_2.$$

以上と p, q, s, t が実数であることより,

$$p = 0, \quad q = -\frac{|z_1|}{|z_2|}, \quad s = \frac{|z_2|}{|z_1|}, \quad t = 1.$$

(2) 条件より,

$$z_3 - z_1 = \alpha(z_2 - z_1)$$

であるから,

$$z_3 = (1 - \alpha)z_1 + \alpha z_2.$$

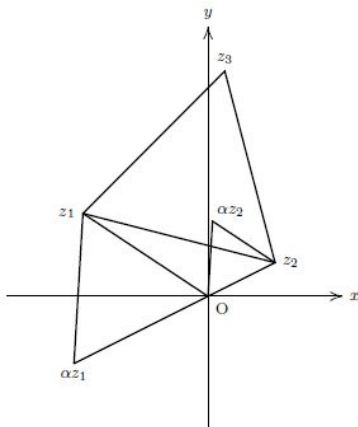
これと (1) より,

$$z_3 = z_1 + \frac{|z_1|}{|z_2|}z_2 + \frac{|z_2|}{|z_1|}z_1 + z_2$$

$$= \left(1 + \frac{|z_2|}{|z_1|}\right)z_1 + \left(1 + \frac{|z_1|}{|z_2|}\right)z_2$$

であるから, a, b が実数より,

$$a = 1 + \frac{|z_2|}{|z_1|}, \quad b = 1 + \frac{|z_1|}{|z_2|}.$$



7-23 (j36-5) 【問題略】

- (1) $\delta = 3 + 4i$ とすると, 等式

$$z\bar{z} + (-3 + 4i)z - (3 + 4i)\bar{z} - 50 = 0 \quad \dots (*)$$

は,

$$z\bar{z} - \bar{\delta}z - \delta\bar{z} - 50 = 0$$

であるから, $|\delta|^2 = 25$ より,

$$(z - \delta)(\bar{z} - \bar{\delta}) - |\delta|^2 - 50 = 0$$

$$|z - \delta|^2 = 75$$

$$|z - \delta| = 5\sqrt{3}.$$

したがって, 等式 (*) を満たす点 z の全体の集合は,

$$\text{中心が } \delta = 3 + 4i, \text{ 半径が } 5\sqrt{3}$$

の円を表す.

- (2) $|\delta| = 5$ より, 絶対値 $|z|$ の

$$\text{最大値は } 5\sqrt{3} + 5, \text{ 最小値は } 5\sqrt{3} - 5.$$

- (3) α, β の定め方より,

$$|\alpha| = 5(\sqrt{3} + 1), \quad |\beta| = 5(\sqrt{3} - 1)$$

であるから,

$$|\gamma| = \left| \frac{\sqrt{3} + 1}{\sqrt{3} - 1} \right| = 2 + \sqrt{3}.$$

また, 3点 β, δ, α はこの順で一直線上にあるから, γ の偏角は,

$$\pi.$$

- (4) (3) の結果より,

$$\gamma = -(2 + \sqrt{3}).$$

さらに, 直線 AB 上の原点があるから,

$$\text{Im}(\alpha - \beta) = 4 + 4\sqrt{3} - (4 - 4\sqrt{3})$$

$$= 8\sqrt{3}$$

より,

$$\Delta ABC = \frac{1}{2}(2 + \sqrt{3}) \cdot 8\sqrt{3}$$

$$= 12 + 8\sqrt{3}.$$